

Ⅱ 学部教育の目的及び各コース別の教育目的と教育目標

1. 佐賀大学教育学部の教育目的

佐賀大学教育学部は、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的・連続的かつ多面的・多角的な視点から理解し支援するための確かな専門性と、現代社会の複雑で多様な教育課題に柔軟に対応できるしなやかな実践力を兼ね備えた、人間性の豊かな学校教員の養成を目的とする。

2. 各コースの教育目的

(1) 小中連携教育コース

教育学部の教育目的を踏まえ、小学校から中学校までの義務教育9年間における幼児・生徒の心身の発達過程の特性に応じた教育の系統性を理解し、各教科の本質や意義、教育内容、学習指導方法について造詣を深め、実践的な指導技術を身に付けた教員養成を行うことを教育目的とする。

(2) 教育支援探究コース

教育学部の教育目的を踏まえ、現在の家庭・学校・地域が抱える教育的課題の解決を視野に入れつつ、幼児・児童・生徒の生活・発達・学習について、教育学や心理学、幼児教育、特別支援教育などの観点から専門的な知識や技能を学び、幼児期から青年期にかけての子どもたちの心身の発達や学びを支えるための教育能力をもった教員養成を行うことを教育目的とする。

Ⅲ 人材育成の目的・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針

【人材育成の目的・学位授与の方針】

教育学部は、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的・連続的かつ多面的・多角的な視点から理解し支援するための確かな専門性と、現代社会の複雑で多様な教育課題に柔軟に対応できるしなやかな実践力を兼ね備えた、人間性の豊かな学校教員の養成を目的とします。

こうした本学部の教育目的に基づいて編成・実施する教育課程において所定の単位を修得し、その学修成果として以下の資質・能力を身に付けた者には、学士（教育学）の学位を授与します。

<教育学部の学修成果>

- ①現代社会における教育と子どもに関わる課題に取り組むために必要な、文化・社会・自然・生命に関する幅広い知識・技能を持ち、多面的な考察による解決法を提案できる。
- ②教員として求められる読解力・文章表現力・数的処理能力及びICTリテラシーや情報収集分析能力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決するコミュニケーション力を備えている。
- ③学校教育、教職、教科についての基本的理論及び概念を説明することができ、子どもたちへの指導力の向上を常に探究し、子どもたちの発達段階や個性に応じた指導ができる。
- ④教科及び教科教育等に関する専門知識と技能を持ち、教育課題の発見と解決に取り組むことができる。
- ⑤グローバル社会へ対応するための外国語運用能力や、異なる文化や価値観に対する多面的・多角的な思考力を教育活動に活かすことができる。
- ⑥学校教育の課題について地域社会と協働し、解決に取り組むことができる。
- ⑦教員としての倫理観と豊かな人間性を備え、使命感を持って子どもたちの成長を支えることができる。

【教育課程編成・実施の方針】

本学部の学位授与の方針を踏まえ、教員として必要とされる専門的・実践的な知識や技能の修得を目的とするとともに、複数の校種の教員免許取得を可能とする教育課程を編成します。

1. 教育課程の編成

- (1) 効果的に学修成果を上げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した教育課程を編成します。
- (2) 教養教育科目については、教員等に求められる資質能力を高めるために、豊かな人間性の基盤となる広い視野と深い教養を身に付ける科目を配置します。
- (3) 専門教育科目については、より多面的・多角的な視点から教員として必要とされる体系的な知識や技能の修得を目的として、各分野に対応した以下の科目を学びの順次性・学問的体系性に基つき配置します。
 - ①学校教育に関わる基礎的知識・技能を修得する科目
 - ②教育分野の現代的課題を発見し解決に取り組むための専門的知識・技能を修得する科目
 - ③確かな指導力を身につけ教員としての資質能力の向上を目的とする科目
 - ④教科の指導法、各校種に関わる専門性、子どもの発達への理解、それらに基づく教育段階の連携・接続の在り方を探求し、子どもへの実践的指導力を修得する科目
 - ⑤多様な文化や価値観、地域社会との関わりについて知見を深め、協調性、協働性を育てる科目
 - ⑥教員としての倫理観と社会的責任感を身に付けた、自律した人材を養成する科目
 - ⑦4年間にわたる学修の集大成として、学生自ら定めた研究課題について取り組む卒業研究

2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義を担当し、科目によっては多面的・多角的な考察を可能とするために複数の担当教員を配置します。
- (2) 順序立てて体系的な知識や理論、技法を学べるように、授業科目の学年配当などを工夫するとともに、教員同士で相互に連携して担当科目間の一貫性を確保します。

3. 教育・指導の方法

- (1) 対面やオンライン、あるいはそれらを組み合わせた形態の講義のほか、実験・実技・実習及びフィールドワーク等による実践的学習や体験学習をバランスよく組み合わせて学修効果を高めます。
- (2) 学生が主体的学修と問題解決法を修得していくことを目指して、ディスカッションやプレゼンテーションなどを取り入れた授業を積極的に行います。

4. 学修成果の評価

- (1) 授業科目の学修成果を評価するために、授業科目担当教員は、測定する到達目標の特性に応じて、筆記試験、レポート、論文、作品、発表、活動内容等により多面的に、また公正かつ的確な評価を行います。
- (2) 個別の授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示します。
- (3) 成績評価は成績評価基準に基つき判定します。
- (4) 教育課程を通した学修成果を、各授業科目の成績、取得単位数、G P A及び外部試験の得点を用いて総合的に評価します。
- (5) 成績評価の結果は、評価分布等を使用して定期的に点検を行ない、必要に応じて教育方法等の改善を行います。

【教育学部共同教員養成課程の学位授与の方針における学修成果と授業科目との対応】

佐賀大学・熊本大学 教育学部共同教員養成課程 ＜教育学部の学修成果＞	授 業 科 目
①現代社会における教育と子どもに関わる課題に取り組むために必要な、文化・社会・自然・生命に関する幅広い知識・技能を持ち、多面的な考察による解決法を提案できる。	大学入門科目（Ⅰ）、インターフェース科目 情報リテラシー科目（情報基礎概論、情報基礎演習Ⅰ） 外国語科目（英語A～D） 基本教養科目（自然科学と技術の分野、文化の分野、現代社会の分野）
②教員として求められる読解力・文章表現力・数的処理能力およびICTリテラシーや情報収集分析能力を身につけ、他者と協働しながら課題を解決するコミュニケーション力を備えている。	大学入門科目（Ⅰ）、インターフェース科目 先端的教育科目 専門教育科目（教科及び教科の指導法に関する科目、大学が独自に設定する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、発達支援に関する科目、特別支援教育に関する科目） 教育実習 教育実践フィールド演習（Ⅰ、Ⅱ）、教職実践演習、（学校支援活動） 卒業研究
③学校教育、教職、教科についての基本的理論及び概念を説明することができ、子どもたちへの指導力の向上を常に探究し、子どもたちの発達段階や個性に応じた指導ができる。	先端的教育科目 教育実践フィールド演習（Ⅰ、Ⅱ）、教職実践演習、（学校支援活動） 教育実習
④教科及び教科教育等に関する専門知識と技能を持ち、教育課題の発見と解決に個人やチームで取り組むことができる。	大学入門科目（Ⅰ）、インターフェース科目 専門教育科目（教科及び教科の指導法に関する科目、大学が独自に設定する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、発達支援に関する科目、特別支援教育に関する科目） 教育実践フィールド演習（Ⅰ、Ⅱ）、（学校支援活動） 教育実習 卒業研究
⑤グローバル社会へ対応するための外国語運用能力や、異なる文化や価値観に対する多角的な思考力を教育活動に活かすことができる。	外国語科目（英語A～D） 自由選択科目 卒業研究
⑥学校教育の課題について地域社会と協働し、解決に取り組むことができる。	大学入門科目（Ⅰ）、インターフェース科目 専門教育科目（教科及び教科の指導法に関する科目、大学が独自に設定する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、発達支援に関する科目、特別支援教育に関する科目） 教育実習、（介護等体験） 教育実践フィールド演習（Ⅰ、Ⅱ）、教職実践演習、（学校支援活動） 卒業研究
⑦教員としての倫理観と豊かな人間性を備え、使命感を持って子どもたちの成長を支えることができる。	インターフェース科目 専門教育科目（大学が独自に設定する科目）、教職実践演習

【学士力と共同教員養成課程の学位授与の方針における学修成果との対応表】

佐賀大学・熊本大学 教育学部共同教員養成課程 <教育学部の学修成果>	1. 基礎的な知識と技能			2. 課題発見・解決能力			3. 個人と社会の持続的発展を支える力		
	(1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能	(2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能	(3) 専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	(2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力	(3) 高い倫理観と社会的責任感
①現代社会における教育と子どもに関わる課題に取り組むために必要な、文化・社会・自然・生命に関する幅広い知識・技能を持ち、多面的な考察による解決法を提案できる。	○	○		○					
②教員として求められる読解力・文章表現力・数的処理能力およびICTリテラシーや情報収集分析能力を身につけ、他者と協働しながら課題を解決するコミュニケーション力を備えている。			○	○	○	○			
③学校教育、教職、教科についての基本的理論及び概念を説明することができ、子どもたちへの指導力の向上を常に探究し、子どもたちの発達段階や個性に応じた指導ができる。			○						
④教科及び教科教育等に関する専門知識と技能を持ち、教育課題の発見と解決に個人やチームで取り組むことができる。				○	○	○			
⑤グローバル社会へ対応するための外国語運用能力や、異なる文化や価値観に対する多角的な思考力を教育活動に活かすことができる。							○		
⑥学校教育の課題について地域社会と協働し、解決に取り組むことができる。				○	○			○	
⑦教員としての倫理観と豊かな人間性を備え、使命感を持って子どもたちの成長を支えることができる。									○

【学士力と授業科目との対応：教育学部共同教員養成課程】

学 士 力		授 業 科 目
(大項目)	(小項目)	
1. 基礎的な知識と技能	(1)市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能	基本教養科目 (自然科学と技術の分野、文化の分野、現代社会の分野)
	(2)市民社会の一員として思考し活動するための技能	外国語科目 (英語A～D)
		情報リテラシー科目 (情報基礎概論、情報基礎演習Ⅰ)
		基本教養科目 (自然科学と技術の分野)
	(3)教育分野に必要とされる基礎的な知識・技能	先端的教育科目
		教育実践フィールド演習 (Ⅰ、Ⅱ)、教職実践演習、(学校支援活動)
教育実習		
2. 課題発見・解決能力	(1)現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目 (Ⅰ)、インターフェース科目
	(2)教育のプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	専門教育科目 (教科及び教科の指導法に関する科目、大学が独自に設定する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、発達支援に関する科目、特別支援教育に関する科目)
		卒業研究
	(3)教育分野の課題発見につながる協調性と指導力	インターフェース科目
		教育実践フィールド演習 (Ⅰ、Ⅱ)、(学校支援活動)
		教育実習
3. 個人と社会の持続的発展を支える力	(1)多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	外国語科目 (英語A～D)
		自由選択科目
		卒業研究
	(2)地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力	インターフェース科目
		専門教育科目 (大学が独自に設定する科目)
		教育実践フィールド演習 (Ⅰ、Ⅱ)、教職実践演習、(学校支援活動)
		教育実習、(介護等体験)
	(3)高い倫理観と社会的責任感	インターフェース科目
		専門教育科目 (大学が独自に設定する科目)、教職実践演習

【教育学部共同教員養成課程における教育目標を達成するための授業科目の流れ(カリキュラムマップ)】

学位授与の方針 (学主力)	授 業 科 目 名							
	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
1	(1)							
	(2)	外国語科目 (英語A)	外国語科目 (英語B)	外国語科目 (英語C)	外国語科目 (英語D)			
		情報リテラシー科目 (情報基礎概論 (情報基礎演習I))						
		基本教養科目(自然科学と技術の分野)						
	(3)				先端的教育科目	先端的教育科目	先端的教育科目	
(学校支援活動)				教育実践 フィールド演習I	教育実践 フィールド演習II		教職実践演習	
					教育実習(主免) (通年科目)		教育実習(併免) (通年科目)	
2	(1)	大学入門科目(I)		インターフェース 科目	インターフェース 科目	インターフェース 科目	インターフェース 科目	
	(2)	専門教育科目(教科及び教科の指導法に関する科目、大学が独自に設定する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、発達支援に関する科目、特別支援教育に関する科目)						
	(3)			インターフェース 科目	インターフェース 科目	インターフェース 科目	インターフェース 科目	
		(学校支援活動)			教育実践 フィールド演習I	教育実践 フィールド演習II		
						教育実習(主免) (通年科目)		教育実習(併免) (通年科目)
3	(1)	外国語科目 (英語A)	外国語科目 (英語B)	外国語科目 (英語C)	外国語科目 (英語D)			
		自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目
							卒業研究	
	(2)			インターフェース 科目	インターフェース 科目	インターフェース 科目	インターフェース 科目	
		専門教育科目(大学が独自に設定する科目)						
		(学校支援活動)			教育実践 フィールド演習I	教育実践 フィールド演習II		教職実践演習
	(3)	(介護等体験(特別支援学校))		(介護等体験(社会福祉施設))		教育実習(主免) (通年科目)		教育実習(併免) (通年科目)
			インターフェース 科目	インターフェース 科目	インターフェース 科目	インターフェース 科目		
専門教育科目(大学が独自に設定する科目)							教職実践演習	
標準修得 単位数*	22	15	17	17	14	19	12	11
履修登録 単位数上限	30	30	30	30	30	30		
	50		50		50			合計127単位以上

※標準修得単位数は、4年間で卒業要件単位を修得するための目安として示すものである。所属する専攻・教科及び取得を希望する免許の種類により、各学期に修得すべき単位数は変動する。